

各種研修費用に係る支援 (負担軽減) 制度




精神科医療は日進月歩であり、常に最新の知識と技術の習得が求められる。学会や研究会への参加は不可欠であるが、その負担は個人に依存しているのが現状である。今後は、組織として学習を支援し、得られた知見を院内に還元する体制の構築が必要である。


目的


各種研修への参加に伴う経済的負担を軽減し、医師の自己研鑽を促進することで、専門性の向上と診療の質の向上を図る。あわせて、得られた知見を院内に還元することにより、組織全体の医療水準の底上げと持続可能な人材育成体制の構築を目的とする。




■ 対象研修の範囲

 学会参加 (総会・地方会・関連学会)

 各種講習・研修
(専門研修、登録医講習、外部セミナー等)

 資格取得・更新
(専門医、指定医、登録医、各種認定資格)


 病院が必要と認める研修





■ 支給条件


 補助率
原則 50～100%補助 (研修内容に応じて設定)

 上限額
年度あたり 上限〇万円 (例: 10～20万円)

 対象費用
・受講料・参加費
・交通費・宿泊費 (必要な場合)


 事前申請制
所属長または院長の承認を得ること


 対象者
原則 常勤医師 (必要に応じて拡大可)


 除外要件
制度の趣旨に照らし、退職予定者は対象外


■ 必須事項

 院内診療体制への貢献

 組織風土への貢献
協働姿勢を持ち、院内の円滑なコミュニケーションと良好な雰囲気作りに寄与


 情報共有・教育への協力
タフミーティング参加や院内での症例共有やスタッフ教育に協力していること


 多職種連携
看護師・薬剤師・MHSW等と連携し、協働した診療をしていること


 勤務実績の確認




■ 義務 (報告・院内還元)

 受講報告
研修終了後、簡易報告書を提出 (A4 1枚程度)

 院内共有
必要に応じてミーティング等で内容を共有

 知識還元
診療や院内教育に活用すること

 不履行時の対応
報告未提出等の場合は、次年度以降の支給制限または減額



学びを支え、知をつなぎ、より良い医療を未来へ
～チーム全体で成長し、患者さんに還元する医療を目指します～